

キャラクター名  
花園 望 (ハナゾノ ノゾミ)

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン オルクス	ワークス	不良高校生	カヴァー	高校生
オプション		年齢	17	性別	女性
覚醒	死	衝動	妄想	初期侵食率	43 %
出自	父親不在	経験	大事故	邂逅	いいひと

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	0	1	0			1	行動値	15
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	15
精神	4	0	0	1		5	戦闘移動	20
社会	3	0	0			3	全力移動	40

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	12		射撃			RC	5		交渉		
回避			知覚	1		意志	6	2	調達		
運転：二輪	2		芸術：			知識：			情報：裏社会	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
混沌なる者の槍	白兵	1r+10	4	17		下記コンボダイス+3 他装備不可
		0				
パニッシュセンチピード		0				
A+B+C+D+F+G	白兵	18r+20		27		C値7 ドッジ3D 侵蝕値18 シナリオ3回

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
イヴの原罪	
携帯電話	
医療トランク	
ウェポンケース	
思い出の一品	
ブランケット：アクセサリ	
歪んだ王国	
デモンズシード	
デリバリー	

合計装甲： 0 合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	ダイス	消費
達人	P	N		
神楽音 照美	P 友情	N 憐憫		
柳楽 倫太郎	P 遺志	N 悔悟		
強羅 瑠璃	P 感服	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6 残り財産P: 3

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
C：ノイマン	3	2	×	-	-	シ	-	
効果：	C値-Lv							
生き字引	1	1	×	至近	自身	意志	-	
効果：	情報ダイス+Lv							
コントロールソート	★	2	×	武器	-	白兵	-	
効果：	【精神】判定							
コンバットシステム	3	5	×/リ	-	-	白兵	-	
効果：	ダイス+Lv+3 攻撃+5							
形なき剣	3	2	×	武器	-	白/射	-	
効果：	ドッジダイス-Lv							
完全なる世界	3	5	×	-	-	シ	100%	
効果：	ダイス+Lv+1 攻撃+Lv×3							
妖精の手	3	4	オート	視界	単体	自動	-	
効果：	出目を10化 シナリオLv回							
ウェポンマスタリー	3	+2	常時	至近	自身	自動	-	
効果：	「混沌なる者の槍」攻撃+Lv+2							
エクスマキナ	3	4	×/リ	-	-	C	L	
効果：	達成値+10 シナリオLv回							
縮地	5	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果：	任意移動 離脱可 シナリオLv回							
灰色の脳細胞	★	+2	常時	-	自身	自動	-	
効果：	行動値+【精神】							
戦神の祝福	4	21	×	武器	-	白/射	120%	
効果：	攻撃+Lv+4D シナリオ1回							
アニマルテイマー	3	3	×/リ	-	-	シ	-	
効果：	ダイス+Lv+1							

「戦車のアルカナは勝利のしるし。不退転に轢き潰してやるよ」

立ち絵：「テイク式女キャラメーカー」様

犬神高校に通う女子高生。  
2年B組の担任である花園 啓多とは兄妹関係にあり、物心ついた時から啓多の背中を追って生きてきた。

しかし中学1年生の時、父親と共に外出中に交通事故に逢い、そのまま父親は死亡。  
望自身はオーヴァードに覚醒する事で蘇ったが、最愛の夫の死によって壊れた母親が、元々ボーイッシュな性格をしていた望を夫と混同して歪んだ愛情を向け始める。

いくら認識を正そうとしても構わず執着してくる母親を突き放す事もできず、そのストレスから不良友達ともつるみ始める。  
それが逆に心の安寧には繋がたらしく、高校に入学する頃には精神もそれなりに安定。  
表向きはクールな王子様キャラとして人気を博しつつ、裏ではチョイ悪な連中とそれなりに友好関係を構築中。

遺産【原罪】と契約する試練を通して、望は今一度、己の『歪み』と『本当の罪』に向き合った。  
誰かの『重み』を背負う事はもうやめた。背負うべきは、いつだって自分の手が届く範囲の『重み』だけ。

花園 望は、これからも歩みを止める事は無い。  
彼女の足が帯びる『原罪』は、きっとこれ以上ないほどに重いものなのだから。

★

